

Cartoon says it all.

マンガをみれば世界がわかる

毎日新聞専門編集委員

西川恵

リビア・王政時代の 国旗を復活制定

四二年間にわたるカダフィ大佐の独裁体制は名実ともに終焉した。逃亡していた大佐は一〇月二〇日、出身地のシルトで民兵らによって拘束された後、死亡した。負傷して運ばれる途中、民兵らによって殺害された可能性が高い。反政府勢力が結集した国民評議会は二三日、「解放宣言」を出した。

しかし新生リビアの誕生というには先行き不透明だ。解



What Does the Future Hold for Libya by Brian Adcock, The Scotland, October 26, 2011

放宣言直前、暫定首相が辞任し、寄り合い所帯の評議会内部の亀裂が表面化した。歴史的にリビアは民主主義を経験したことがない。独裁体制下で長年、屈従を強いられてきた人々のエネルギーは、重石がとれた今後、どのように噴出するのだろう。国中にはらまかれた銃火器も大きなリスクだ。

国民評議会は新たなリビア国旗として、それまでの緑一色から、王政時代の国旗を復活し採用する。上から赤、黒、緑の横縞で、真ん中に白の三日月と星があらわれている。しかしこの国の将来を展望する時、三日月と星はクエスチョン・マークに見えてくる。

地球の人口が 七〇億人に達する

国連人口基金（UNFPA）の推計で、地球の人口が一〇月三十一日、七〇億人の大台に乗った。国連はこの日に生まれた世界中の赤ちゃん全員を「地球七〇億人目の仲間」として祝い、UNFPA東京事務所は「七〇億人目の赤ちゃんの一人」とする認定書を発行した。

人口が一〇億人になったのは産業革命時代の二〇〇年前。人類誕生から一〇数億年という気の遠くなるような時を経てのことだが、それから七倍になるのに要したのはわずか二〇〇年。この爆発的な増加を可能ならしめたものは技術革新と貿易である。

しかし国連が「歴史的な瞬間」と意義付ける一方で、地球上に目をこらすと、富を独占する一パーセントに対し、九九パーセントの大衆の反乱が、米ウォールストリートをはじめ各地で起きている。これが今世紀末に一〇〇億人を上回ると予想される地球に示唆するものは小さくない。富を分かち合い、食料、エネルギーを節約することの大切さを改めてかみしめたい。



Occupy Earth by Joe Heller, Green Bay Press-Gazette, October 26, 2011